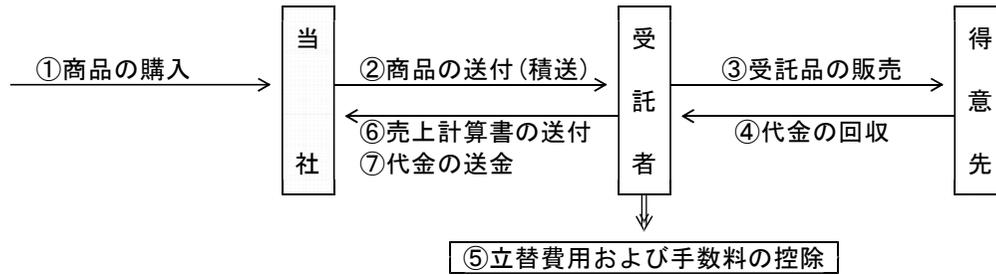


4-1 委託販売

1 【委託販売】

1. 意義

委託販売とは、受託者に自己の商品の販売を委託する販売形態をいう。



2. 収益認識基準

(1) 原則

原則として、受託者が商品を販売した時点で収益を認識する(受託者売上額基準)。

(2) 仕切精算書基準

売上計算書(仕切精算書)が到着した時点で収益を認識することも容認されている。

2 【手許商品区分法による記帳】

1. 期首

繰越商品	800	
積送品	400	

2. 商品購入時

仕入	6,400	//	買掛金	6,400
----	-------	----	-----	-------

3. 一般売上

売掛金	2,500	//	一般売上	2,500
-----	-------	----	------	-------

4. 商品積送時

積送品	4,000	//	仕入	4,000
-----	-------	----	----	-------

5. 売上計算書到着時

積送売掛金	4,760	//	積送品売上	5,400
積送諸掛費	640	//		

6. 決算整理前

繰越商品	800	一般売上	2,500
積送品	4,400	積送品売上	5,400
仕入	2,400		
積送諸掛費	640		

7. 決算整理

①店頭品

仕入	800	//	繰越商品	800
繰越商品	1,200	//	仕入	1,200

②積送品

仕入	4,400	//	積送品	4,400
積送品	800	//	仕入	800

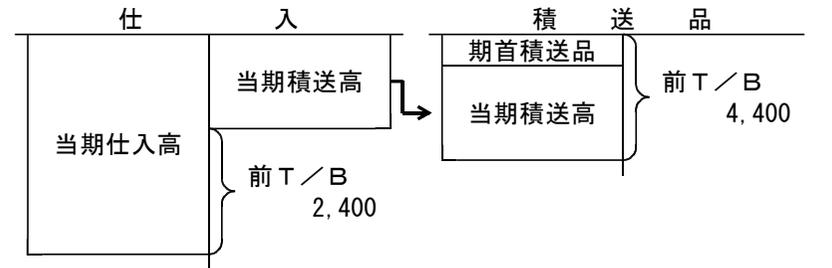
8. 決算整理後

決算整理後試算表

繰越商品	1,200	一般売上	2,500
積送品	800	積送品売上	5,400
仕入	5,600		
積送諸掛費	640		

9. 勘定の流れ

※ 当期に積送した商品の原価は仕入勘定から控除されている



一般販売		積送品売買	
期首	800	期首	400
当期	2,400	当期	4,000
期末	1,200	期末	800

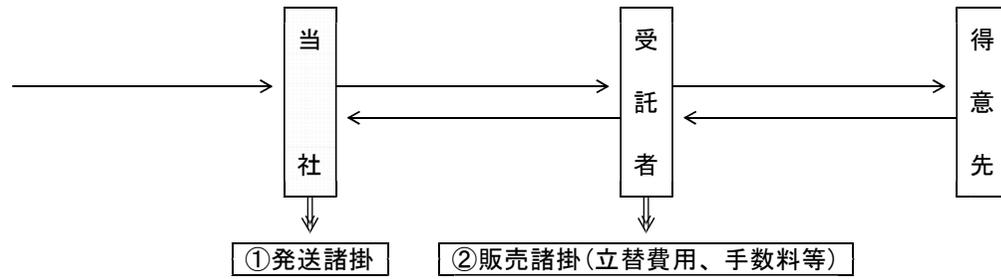
↑ 当初の仕入高 6,400 - 当期の積送高 4,000

10. 損益計算書

I 売上高		
一般売上高	2,500	
積送品売上高	5,400	7,900
II 売上原価		
期首商品棚卸高	1,200	← 期首手許品 800 + 期首積送品 400
当期商品仕入高	6,400	
合計	7,600	
期末商品棚卸高	2,000	← 5,600 (期末手許品 1,200 + 期末積送品 800)
売上総利益		2,300
III 販売費及び一般管理費		
積送諸掛費		640
営業利益		1,435

③【積送諸掛の処理】

1. 積送諸掛費の分類



2. 発送諸掛の処理

(1) 発送諸掛に対する認識と対応

認識 \ 対応	積送売上高対応分	期末積送品対応分
積送品原価を構成	売上原価	商品(または積送品)
販売のための費用	積送諸掛費	繰延積送諸掛

※ 販売のための費用と考える場合の決算整理事項

積送諸掛費	280 // 繰延積送諸掛	280
繰延積送諸掛	400 // 積送諸掛費	400

(2) 発送諸掛の按分計算

①平均法による場合

発送諸掛	積送費	発送諸掛
280	期首 16,000	売原
	仕入 80,000	期末 20,000
1,640	} $1,920 \times \frac{20,000}{96,000}$	

②先入先出法による場合

発送諸掛	積送費	発送諸掛
280	期首 16,000	売原
	仕入 80,000	期末 20,000
1,640	} $1,640 \times \frac{20,000}{80,000}$	

3. 手数料等の処理

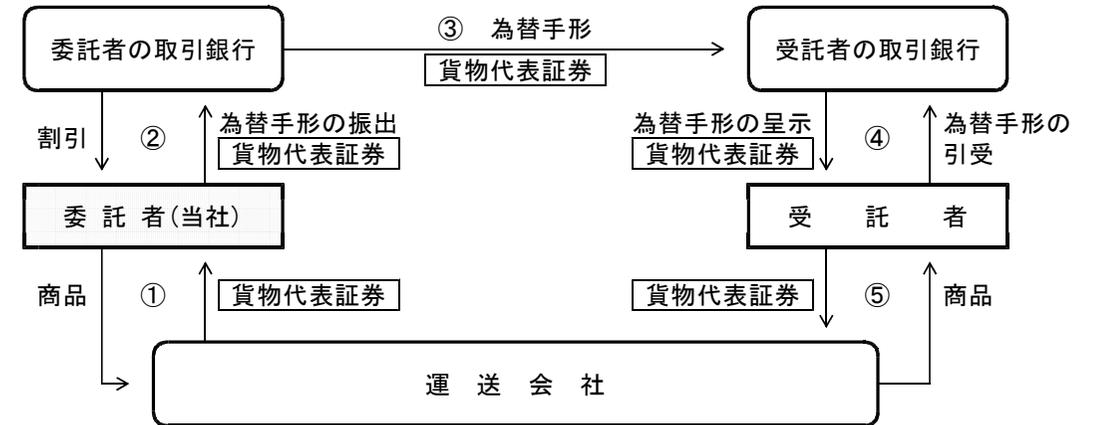
(1) 原則(総額処理)

受託者の販売高を積送品売上高とし、立替諸掛等は販売費として積送諸掛費勘定で処理する。

(2) 特例(純額処理)

立替諸掛等と受託者販売高を相殺し、残額を委託者の売上高とすることも容認されている。

④【荷為替の取組】



1. 積送掛金勘定及び前受金勘定で処理する場合

(1) 荷為替の取組(上図②)

現金預金	3,960 // 前受金	4,000
手形売却損	40 //	

(2) 売上計算書到着時

積送諸掛費	640 // 積送品売上	5,400
前受金	4,000 //	
積送売掛金	760 //	

(3) 代金回収時

現金預金	760 // 積送売掛金	760
------	--------------	-----

2. 委託販売勘定で処理する場合

(1) 荷為替の取組(上図②)

現金預金	3,960 // 委託販売	4,000
手形売却損	40 //	

(2) 売上計算書到着時

積送諸掛費	640 // 積送品売上	5,400
委託販売	4,760 //	

(3) 代金回収時

現金預金	760 // 委託販売	760
------	-------------	-----

(4) 勘定の流れ

		委託販売	
委託品の販売代金	4,760	荷為替引受額	4,000
		委託品の販売残金	760

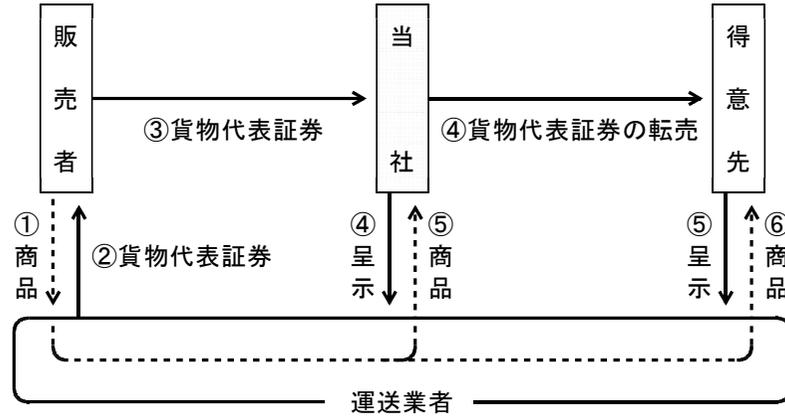
※ 委託販売勘定が貸方残の場合は、期末売上債権に含まれ、貸倒引当金の設定対象となる。

4-3 未着品販売

1 【未着品販売】

1. 意義

未着品販売とは、貨物代表証券の購入、現品の引取および貨物代表証券の販売をいう。



2 【手許商品区分法による記帳】

1. 期首

繰越商品	800	
未着品	500	

2. 貨物代表証券の購入

未着品	3,500	//	買掛金	3,500
-----	-------	----	-----	-------

3. 現品の引取

仕入	1,000	//	未着品	1,000
----	-------	----	-----	-------

4. 一般仕入

仕入	5,000	//	買掛金	5,000
----	-------	----	-----	-------

5. 一般売上

売掛金	7,500	//	一般売上	7,500
-----	-------	----	------	-------

6. 貨物代表証券の販売

売掛金	3,200	//	未着品売上	3,200
-----	-------	----	-------	-------

7. 決算整理前

繰越商品	800	一般売上	7,500
未着品	3,000	未着品売上	3,200
仕入	6,000		

8. 決算整理

①店頭品

仕入	800	//	繰越商品	800
繰越商品	900	//	仕入	900

②未着品

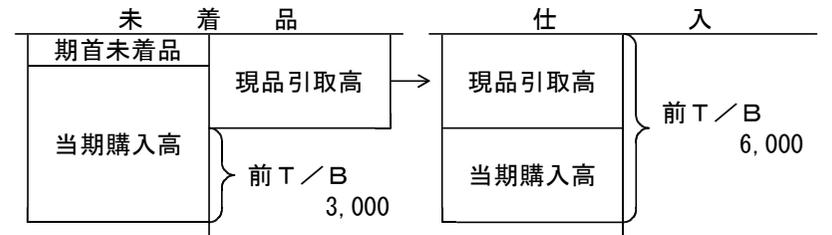
仕入	3,000	//	未着品	3,000
未着品	1,000	//	仕入	1,000

9. 決算整理後

繰越商品	900	一般売上	7,500
未着品	1,000	未着品売上	3,200
仕入	7,900		

10. 勘定の流れ

※ 当期に引取った現品の原価は仕入勘定に加算されている



期首	500	売原	
当期	3,500		2,000
	△ 1,000	期末	1,000

期首	800	売原	
当期			5,900
	6,000	期末	900

↑ 当期の現品引取高を控除する

11. 損益計算書

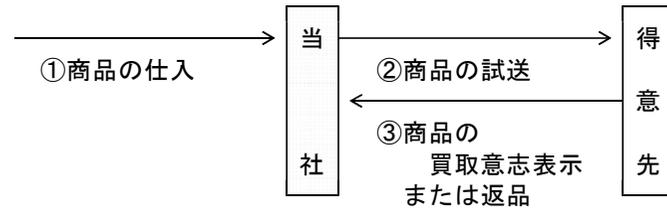
I 売上高		
一般売上高	7,500	
未着品売上高	3,200	10,700
II 売上原価		
期首商品棚卸高	1,300	← 期首手許品 800 + 期首未着品 500
当期商品仕入高	8,500	
合計	9,800	
期末商品棚卸高	1,900	← 期末手許品 900 + 期末未着品 1,000
売上総利益	7,900	2,800

4-4 試用販売

1 【試用販売】

1. 意義

試用販売とは、得意先に商品を引渡した後に一定期間試用し、買取の意志表示があった時点で売買契約が成立する販売形態である。



2. 収益認識基準

(1) 原則

試用品販売は、得意先より買取の意志表示があった時点で収益を認識する。

(2) 契約による慣例

試用販売契約が、「試用期間の経過後、返送されないときは買取るとみなす」旨である場合には、得意先から何ら意志表示がなくとも、試用期間の経過時に収益を認識する。

2 【手許商品区分法による記帳】

1. 期首

繰越商品	800	
試用品	400	

2. 一般仕入

仕入	6,400	//	買掛金	6,400
----	-------	----	-----	-------

3. 一般売上

売掛金	2,500	//	一般売上	2,500
-----	-------	----	------	-------

4. 商品の試送

試用品(原価)	4,000	//	仕入(原価)	4,000
---------	-------	----	--------	-------

5. 商品の返品

仕入(原価)	400	//	試用品(原価)	400
--------	-----	----	---------	-----

6. 試用品売上

売掛金(売価)	4,800	//	試用品売上(売価)	4,800
---------	-------	----	-----------	-------

7. 決算整理前

繰越商品	800	一般売上	2,500
試用品	4,000	試用品売上	4,800
仕入	2,800		

8. 決算整理

①店頭品

仕入	800	//	繰越商品	800
繰越商品	1,600	//	仕入	1,600

②試用品

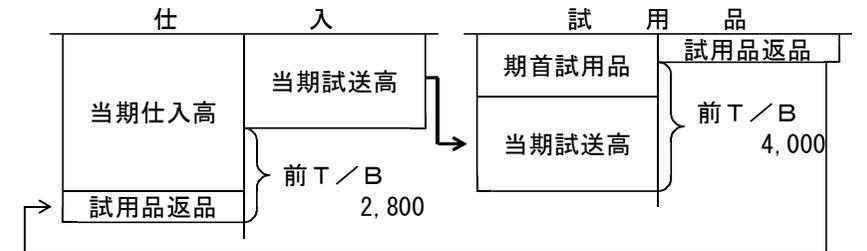
仕入	4,000	//	試用品	4,000
試用品	800	//	仕入	800

9. 決算整理後

決算整理後試算表

繰越商品	1,600	一般売上	2,500
試用品	800	試用品売上	4,800
仕入	5,200		

10. 勘定の流れ



※ 当期に試送した商品の原価は仕入勘定から控除されている

一般販売		試用品売買	
期首	800	期首	400
当期	2,800	当期	3,600
期末	1,600	期末	800

11. 損益計算書

I 売上高		
一般売上高	2,500	
試用品売上高	4,800	7,300
II 売上原価		
期首商品棚卸高	1,200	← 期首手許品 800 + 期首試送品 400
当期商品仕入高	6,400	
合計	7,600	
期末商品棚卸高	2,400	← 期末手許品 1,600 + 期末試送品 800
売上総利益	5,200	2,100

③【対照勘定法(三分法)】

1. 期首

期首試算表	
繰越商品	800 試用仮売上 600
繰越試用品	400
試用未収金	600

2. 一般仕入／一般売上

- 手許商品区分法に同じ -

3. 商品の試送

試用未収金(売価)	6,000 // 試用仮売上(売価)	6,000
-----------	--------------------	-------

4. 商品の返品

試用仮売上(売価)	600 // 試用未収金(売価)	600
-----------	------------------	-----

5. 試用品売上

売掛金(売価)	4,800 // 試用品売上(売価)	4,800
試用仮売上(売価)	4,800 // 試用未収金(売価)	4,800

6. 決算時

決算整理前試算表	
繰越商品	800 一般売上 2,500
繰越試用品	400 試用品売上 4,800
仕入	6,400 試用仮売上 1,200
試用未収金	1,200

7. 決算整理

①店頭品

仕入	800 // 繰越商品	800
繰越商品	1,600 // 仕入	1,600

②試用品

仕入	400 // 繰越試用品	400
繰越試用品	800 // 仕入	800

8. 決算整理後

決算整理後試算表	
繰越商品	1,600 一般売上 2,500
繰越試用品	800 試用品売上 4,800
仕入	5,200 試用仮売上 1,200
試用未収金	1,200

9. 勘定の流れ

仕	入
当期仕入高	繰越残高
	繰越試用品
繰越残高	} 後T/B 5,200 ※ 当期に試送した商品の原価は仕入勘定の中に含まれている
繰越試用品	

試用未収金		試用仮売上	
繰越残高	試用品返品	試用品返品	繰越残高
当期試送高	試用品売上	試用品売上	当期試送高
	} 前T/B 1,200 = 後T/B 1,200		

④【対照勘定法における原価率の算定】

1. 前期と当期の試用原価率が同じ場合

ex. 「試用販売品の売価は、一般商品の売価の10%増である」

一般販売 + 試用販売				一般売価ベース	
期首	一般 4,500	試用 3,500	売原	一般 (?)	→ 60,000
仕入				試用 (?)	← 35,200 ÷ 1.1 = 32,000
	一般+試用 74,000		期末	一般 (?)	8,800 ÷ 1.1 = 8,000
				試用 7,000	← 100,000
	82,000		82,000		
	原価率 = (90,000 - 7,000) ÷ 100,000 = 0.75				

2. 前期と当期の試用原価率が異なる場合

ex. 「期首試用品の利益率は30%、一般商品の利益率は25%で一定ある」

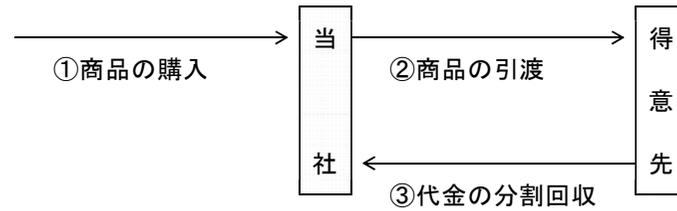
一般販売 + 試用販売				一般売価ベース	
期首	一般 4,500	試用 3,500	売原	一般 (?)	→ 50,000
仕入				試用 { 3,500	← 期首分 (80,000 - 5,000) ÷ 1.25 = 60,000
				{ (?)	
	一般+試用 91,500		期末	一般 (?)	10,000 ÷ 1.25 = 8,000
				試用 7,500	← 118,000
	99,500		99,500		
	原価率 = (99,500 - 7,500 - 3,500) ÷ 118,000 = 0.75				

4-5 割賦販売

①【割賦販売】

1. 意義

割賦販売とは、商品引渡後、月賦等の方法により代金を分割回収する販売形態をいう。



2. 収益認識基準

(1) 原則

原則として、通常の商品販売と同様、商品引渡時に収益を認識する(販売基準)。

(2) 割賦基準

割賦販売については、代金回収が長期にわたることや、分割回収のため貸倒の危険性も高いことから、以下の基準の選択適用も認められている。

①回収期限到来基準

割賦代金の回収期限が到来したとき、回収期限の到来した割賦代金を収益と認識する。

②回収基準

割賦代金を回収したとき、回収金額だけを収益と認識する。

②【貸倒が発生した場合の会計処理】

1. 割賦代金の貸倒と戻り商品

割賦販売で、割賦代金が貸倒となった場合には、引渡した商品を取戻すことになり、この取戻した商品を戻り商品という。

2. 会計処理

(1) 戻り商品の計上

戻り商品は、既に使用されているので新品と同じ価値はないが、中古品として再販売が可能な場合には新たな商品の仕入と考え、戻り商品を時価評価額で計上する。

ただし、その取得の形態が特殊なため、

①取戻し時には「戻り商品」勘定に計上する

②決算時に仕入勘定に振替える

ことが一般的である。

(2) 戻り商品損失の計上

貸倒れた割賦売掛金の金額と戻り商品の評価額との差額は、「戻り商品損失」として計上する。

③【販売基準での記帳】

1. 期首

期首試算表			
割賦売掛金	1,500	繰延売上利益	600
繰越商品	300		

2. 一般仕入、一般売上

仕入	6,700	//	買掛金	6,700
売掛金	4,800	//	一般売上	4,800

3. 商品引渡(割賦販売)

割賦売掛金(売価)	5,200	//	割賦売上(売価)	5,200
-----------	-------	----	----------	-------

4. 割賦代金回収

現金預金	4,900	//	割賦売掛金	4,900
------	-------	----	-------	-------

5. 貸倒(前期引渡分)

戻り商品	100	//	割賦売掛金	200
戻り商品損失	100	//		

6. 貸倒(当期引渡分)

戻り商品	250	//	割賦売掛金	520
戻り商品損失	270	//		

7. 決算時

決算整理前試算表			
割賦売掛金	1,080	一般売上	4,800
繰越商品	300	割賦売上	5,200
仕入	6,400		
戻り商品	350		
戻り商品損失	290		

8. 決算整理(期末手許商品400)

①手許商品

仕入	300	//	繰越商品	300
繰越商品	750	//	仕入	750

②戻り商品

仕入	350	//	戻り商品	350
----	-----	----	------	-----

9. 決算整理後

決算整理後試算表			
割賦売掛金	1,080	一般売上	4,800
繰越商品	750	割賦売上	5,200
仕入	6,600		
戻り商品損失	290		

4【回収基準(未実現利益整理法)での記帳】

1. 期首

期首試算表			
割賦売掛金	1,500	繰延売上利益	600
繰越商品	300		

2. 一般仕入、一般売上

仕入	6,700 // 買掛金	6,700
売掛金	4,800 // 一般売上	4,800

3. 商品引渡(割賦販売)

割賦売掛金(売価)	5,200 // 割賦売上(売価)	5,200
-----------	-------------------	-------

4. 割賦代金回収

現金預金	4,900 // 割賦売掛金	4,900
------	----------------	-------

5. 貸倒(前期引渡分)

繰延割賦売上利益	80 // 割賦売掛金	200
戻り商品	100 //	
戻り商品損失	20 //	

6. 貸倒(当期引渡分)

戻り商品	250 // 割賦売掛金	520
戻り商品損失	270 //	

7. 決算時

決算整理前試算表			
割賦売掛金	1,080	繰延売上利益	600
繰越商品	300	一般売上	4,800
仕入	6,400	割賦売上	5,200
戻り商品	350		
戻り商品損失	290		

8. 決算整理(期末手許商品400)

①手許商品

仕入	300 // 繰越商品	300
繰越商品	750 // 仕入	750

②割賦利益の調整

繰延売上利益	400 // 繰延売上利益戻入	400
繰延売上利益控除	330 // 繰延売上利益	330

③戻り商品

仕入	350 // 戻り商品	350
----	-------------	-----

9. 決算整理後

決算整理後試算表			
割賦売掛金	1,080	繰延売上利益	450
繰越商品	750	一般売上	4,800
仕入	6,600	割賦売上	5,200
繰延売上利益控除	330	繰延売上利益戻入	400
戻り商品損失	290		

10. 勘定の流れ

仕入		割賦売掛金	
当期仕入高	} 後T/B = 売上原価	繰越残高	代金回収高
期首手許品 戻り商品		当期引渡高	前期分貸倒 当期分貸倒
			後T/B

11. 損益計算書

損益計算書			
I 売上高			
一般売上高	4,800		
割賦売上高	5,200	10,000	
II 売上原価			
期首商品棚卸高	300	← 期首手許品 300	
当期商品仕入高	7,050	← 当期仕入高6,700 + 戻り商品 350	
合計	7,350	← 期首手許品 400 + 戻り商品 350	
期末商品棚卸高	750	← 6,600	
差引	3,400		※ 当期引渡分の貸倒の別法
繰延売上利益戻入	400		戻り商品 250
繰延売上利益控除	330		繰延売上利益戻入 220 → 550
売上総利益	3,470		戻り商品損失 50 → 3,250
III 販売費及び一般管理費			↑
取戻商品損失	290		(520 × (1.3 - 0.75) / 1.3) → 70
営業利益	3,180		3,180

12. 未実現利益法における原価率の算定

ex. 「割賦販売品の売価は、一般商品の売価の30%増である」

割賦売掛金			
利益率	回収 1,000	× 0.4 = 400	→ 戻入
600 ↔ 前期分 1,500	貸倒 200	× 0.4 = 80	→ 精算
0.4	未回収 300		
	回収 3,900		
当期分 5,200	貸倒 520		
	未回収 780	× (1.3 - 0.75) / 1.3 = 330	→ 戻出

一般販売 + 割賦販売			一般売価ベース
期首手許 300	売原		
	一般 (3,600)		→ 4,800
仕入	割賦 当期 (2,200)		→ 5,200 / 1.3 = 4,000
			8,800
	期末		
	手許 通常 400		
戻り 350	戻り 350		
7,350	7,350		
原価率 = (7,350 - 400 - 350) ÷ 8,800 = 0.75			

5 【回収基準(対照勘定法)での記帳】

1. 期首

期首試算表			
繰越商品	300	割賦仮売上	1,500
繰越割賦商品	900		
割賦未収金	1,500		

2. 一般仕入、一般売上

仕入	6,700	// 買掛金	6,700
売掛金	4,800	// 一般売上	4,800

3. 商品引渡(割賦販売)

割賦未収金(売価)	5,200	// 割賦仮売上(売価)	5,200
-----------	-------	--------------	-------

4. 割賦代金回収

現金預金	4,900	// 割賦売上	4,900
割賦仮売上	4,900	// 割賦未収金	4,900

5. 貸倒(前期引渡分)

戻り商品	100	// 繰越割賦商品	120
戻り商品損失	20	//	
割賦仮売上	200	// 割賦未収金	200

6. 貸倒(当期引渡分)

戻り商品	250	// 仕入	300
戻り商品損失	50	//	
割賦仮売上	520	// 割賦未収金	520

7. 決算時

決算整理前試算表			
繰越商品	300	一般売上	4,800
繰越割賦商品	780	割賦売上	4,900
仕入	6,400		
戻り商品	350		
戻り商品損失	70		
割賦未収金	1,080	割賦仮売上	1,080

8. 決算整理(期末手許商品400)

①手許商品

仕入	300	// 繰越商品	300
繰越商品	750	// 仕入	750

②割賦商品

仕入	780	// 繰越割賦商品	780
繰越割賦商品	630	// 仕入	630

③戻り商品

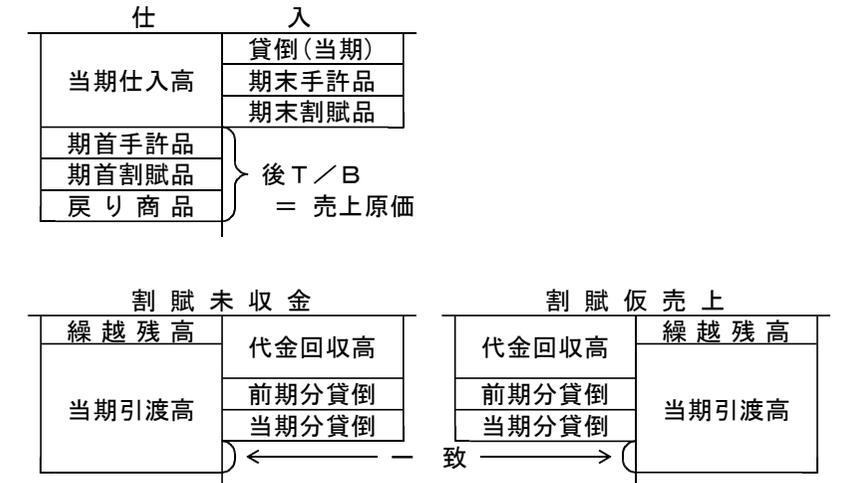
仕入	350	// 戻り商品	350
----	-----	---------	-----

☆ 入金(または期限到来)時に売上計上 / 未渡し品は在庫なので繰越商品として洗替え
 前期引渡分の貸倒れは、繰越商品分のみが無価値となる。
 当期引渡分の貸倒れは、火災損失と同様、他勘定振替となる。

9. 決算整理後

決算整理後試算表			
繰越商品	750	一般売上	4,800
繰越割賦商品	630	割賦売上	4,900
仕入	6,450		
戻り商品損失	70		
割賦未収金	1,080	割賦仮売上	1,080

10. 勘定の流れ



11. 対照勘定法における原価率の算定

割賦未収金	
原価率	回収 1,000
900 ← 前期分 1,500	貸倒 200 × 0.6 = 120 → 繰越割賦商品を減額
0.6	未回収 300 × 0.6 = 180
	回収 3,900
当期分 5,200	貸倒 520 × 0.75 / 1.3 = 300 → 仕入を減額
	未回収 780 × 0.75 / 1.3 = 450
	期末割賦商品原価 630

一般販売 + 割賦販売			一般売価ベース
期首	手許 300	売原	
	割賦 900	一般 (3,600)	→ 4,800
仕入	一般 6,700	割賦 前期 600	← 1,000 × 0.6
		当期 (2,250)	→ 3,900 / 1.3 = 3,000
		貸倒 前期 120	← 200 × 0.6
		当期 (300)	→ 520 / 1.3 = 400
		期末	
		割賦 前期 180	← 300 × 0.6
		当期 (450)	→ 780 / 1.3 = 600
		手許 通常 400	8,800
	戻り 350	戻り 350	
	8,250	8,250	
	原価率 = (8,250 - 600 - 120 - 180 - 400 - 350) ÷ 8,800 = 0.75		

⑥【回収期限到来基準】

1. 回収基準と回収期限到来基準

回収基準では割賦代金の回収の事実により収益を認識するが、回収期限到来基準では期限到来の事実によって収益を認識する。ただし、回収期限が未到来であっても、回収の事実があれば、収益を認識する。

	期 限 到 来		期 限 未 到 来	
	回 収 済	未 回 収	回 収 時	未 回 収
回 収 基 準	認識する	—	認識する	—
回収期限到来基準	認識する		認識する	—

2. 期限到来時に未回収であるときの会計処理

(1) 未実現利益整理法

通常の売上債権と同様に、売掛金勘定に振替える(割賦売掛金で保留することもある)。

売 掛 金 × × × // 割 賦 売 掛 金 × × ×

(2) 対照勘定法

売 掛 金 × × × // 割 賦 売 上 × × ×
割 賦 仮 売 上 × × × // 割 賦 未 収 金 × × ×

3. 決算時の処理

(1) 未実現利益整理法

期末に未回収の割賦代金のうち、期限未到来分に対応する利益部分を未実現利益として繰延る。

割 賦 売 掛 金				繰延割賦 利益戻入
前 期 分	回 収	到 来	}	
	未 回 収	未 到 来		
		未 到 来		} → 繰延割賦 利益控除
当 期 分	回 収	到 来		
	未 回 収	未 到 来		
		未 到 来		

(2) 対照勘定法

期末に未回収の割賦代金のうち、期限未到来分に対応する原価部分を期末商品として繰越す。

割 賦 未 収 金				売上計上
前 期 分	回 収	到 来	}	
	未 回 収	未 到 来		
		未 到 来		} → 期 末 割 賦 商 品
当 期 分	回 収	到 来		
	未 回 収	未 到 来		
		未 到 来		

⑦【割賦販売と貸倒引当金】

1. 未実現利益整理法の場合

(1) 割賦売掛金全額に対して設定する

$$\text{貸倒引当金} = \text{期末割賦売掛金} \times \text{設定率}$$

(2) 割賦売掛金から繰延売上利益を控除した原価相当額に対して設定する

$$\text{貸倒引当金} = (\text{期末割賦売掛金} - \text{繰延売上利益の次期繰越額}) \times \text{設定率}$$

(3) 割賦売掛金には設定しない

2. 対照勘定法の場合

(1) 原価相当額に対して設定する

$$\text{貸倒引当金} = \text{期末割賦商品原価} \times \text{設定率}$$

(2) 割賦代金には設定しない

3. 割賦代金の貸倒

当期前に引渡した商品が貸倒れた場合には、貸倒引当金を充当する。

(1) 対照勘定法

① 設定あり

戻り商品	100 //	繰越割賦商品	120
貸倒引当金	20 //		
割賦仮売上	200 //	割賦未収金	200

② 設定なし

戻り商品	100 //	繰越割賦商品	120
戻り商品損失	20 //		
割賦仮売上	200 //	割賦未収金	200

(2) 未実現利益整理法

① 設定あり

繰延割賦売上利益	80 //	割賦売掛金	200
戻り商品	100 //		
貸倒引当金	20 //		

② 設定なし

繰延割賦売上利益	80 //	割賦売掛金	200
戻り商品	100 //		
戻り商品損失	20 //		

4-6 予約販売、先物売買

①【予約販売】

1. 意義

予約販売とは、商品の販売に先駆けて注文を受けておき、商品の代金の一部または全部を予め受領しておく販売形態をいう。

2. 収益認識基準

予約金受領時ではなく、商品を引渡した時点で収益を認識する(販売基準)。

3. 会計処理

(1) 予約受付時

現金預金	×××	//	前受金	×××
------	-----	----	-----	-----

(2) 商品引渡時

前受金	×××	//	売上	×××
(現金預金)	×××	//		

②【商品券】

1. 収益認識基準

商品券の販売時ではなく、商品券と引替えに商品を引渡した時点で収益を認識する(販売基準)。

2. 会計処理

(1) 商品券発行時

現金預金	×××	//	商品券	×××
------	-----	----	-----	-----

(2) 商品引渡時

①自店発行商品券の受取

商品券	×××	//	売上	×××
(現金預金)	×××	//		

②他店発行商品券の受取

他店商品券	×××	//	売上	×××
(現金預金)	×××	//		

(3) 商品券の精算

商品券	×××	//	他店商品券	×××
(他店にて回収分)		//	(現金預金)	×××

③【先物売買】

1. 意義

先物売買とは、将来の一定期日に商品現物の引渡を行う売買契約をいう。

2. 会計処理

(1) 先物買受契約

①契約締結時

先物買受契約	×××	//	先物買受契約買掛金	×××
前渡金	×××	//	現金預金	×××

②商品引受時

仕入	×××	//	前渡金	×××
		//	買掛金	×××
先物買受契約買掛金	×××	//	先物買受契約	×××

(2) 先物売渡契約

①契約締結時

先物売渡契約売掛金	×××	//	先物売渡契約	×××
現金預金	×××	//	前受金	×××

②商品引受時

前受金	×××	//	売上	×××
売掛金	×××	//		
先物売渡契約	×××	//	先物売渡契約売掛金	×××